

ク ロ マ ツ

Pinus thunbergii



種名

分類	常緑高木 マツ科 マツ属	俗称	オマツ	別名	
分布	本州、四国、九州、朝鮮南部				
形態	大きいものは高さ40m、直径2m以上になる。樹皮は灰黒色で、幼木では浅く裂けるが、老木になると深い亀甲状に裂け目 ができ、やや厚い不規則な鱗片となって剥がれ落ちる。葉は2個づつ束生し、長さ5～16cmの針状でかたく、基部は褐色のさ やにおおわれている。葉の横断面は半円形、4～5月に開花する。雄花は今年のびた枝の下部に多数群がってつき、雌花は 先端に1～3個つく。雄花は長さ1.5～1.8 cmの長楕円状円柱形、雌花は紫紅色でほぼ球形。球果は翌年の10月頃に成熟 し、長さ5～7cmの卵状円錐形で淡褐色。種子は長さ5～6mmの倒卵形で、種子の長さの3倍くらいの翼がある。幹からまつや にがとれる。				
類似種					
生育場所	海岸沿いを中心に広く自生する。乾燥と湿気に強く、また潮風に対する抵抗力もあるので、防風・防潮林として植えられること が多い。				
繁殖					
他生物との関係					
配慮のポイント					
トピック					
その他					
用途	庭木、並木、防風・防潮樹、建築・土木器具材、花材				
引用文献：『山溪カラー名鑑 日本の樹木』を改変					

引用文献：『山溪カラー名鑑 日本の樹木』を改変